

政府関係機関の地方移転に係る 提案書

平成27年8月
福井県



政府関係機関移転の基本方針について

東京一極集中の解決に向け、出生率の高い地方に人と企業を戻すため、政府関係機関移転の基本方針決定にあたり、以下の事項について政府の積極的な対応を求める

- 国と地方が力を合わせ、まずは政府関係機関の地方移転を実現することにより、企業等の地方移転の大きな流れを生み出すことが政府関係機関移転の国家的意義
有識者会議等における検討にあたっては、移転効果の評価に終始することなく、地方の提案を最大限に尊重すること
- 研究機関には、独立行政法人に限らず、大学共同利用機関法人や海外大学・研究機関なども存在し、成果活用や連携の必要性は大きい
募集要綱の別添リストに記載がない機関についても、地方創生に資するものは、国が積極的に地方移転の実現を支援すること
【要望①】
- 地域における産業活性化や文化・歴史遺産の有効活用のためには、産業・科学技術分野の研究開発や学術研究の高度化が不可欠であるが、その担い手となるべき専門的人材が不足
政府関係機関の移転に加え、地方の公的研究機関等を強化するための新たな人事交流制度を創設すること
【要望②】

本県への移転提案機関

機関名	移転対象部門	移転先	所管省庁
(独)理化学研究所	仁科加速器研究センター 生物照射チーム (埼玉県和光市)	若狭湾エネルギー研究センター内 (敦賀市)	文部科学省 研究振興局
(独)産業技術総合研究所	つくばセンター (茨城県つくば市)	福井県工業技術センター内 (福井市)	経済産業省 産業技術環境局
国立教育政策研究所	教育課程研究センター (東京都千代田区)	福井県教育研究所の移転先	文部科学省 生涯学習政策局
(独)教員研修センター	教育課題研修課 (東京都千代田区)	福井県教育研究所の移転先	文部科学省 初等中等教育局
(独)国立青少年教育振興 機構本部	青少年教育研究センター (東京都渋谷区)	福井県教育研究所の移転先	文部科学省 スポーツ・青少年局
(独)水産総合研究センター	本部研究推進部 (神奈川県横浜市) 日本海区水産研究所 (新潟県新潟市)	栽培漁業センター内 (小浜市)	農林水産省 水産庁

移転提案機関：(独)理化学研究所

○若狭湾エネルギー研究センターは、地方自治体の研究機関として、育種目的のビーム照射施設を唯一運用。研究開発から成果の実用化まで、県による一貫した支援が可能

○仁科加速器研究センター生物照射チームを若狭湾エネルギー研究センターに移転
(関連機関として、環境資源科学研究センター生産機能研究グループとの品種の遺伝子解析等における連携も検討)

本県移転のメリット

[研究環境]

- ・若狭湾エネ研と仁科センターの加速器はイオンビームの種類が異なり、両施設の特長を活用した研究が可能

[研究人材]

- ・県立大学生物資源学部では、生物資源を食糧・医薬分野等に利用する研究人材を育成

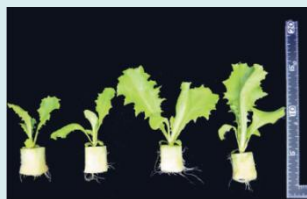
[実用化支援]

- ・研究成果を県内企業や農業者に普及する支援策が充実

(具体的な支援政策)

割安な電気料金を活用したオランダ式の最新植物工場の整備
新たな作物の導入を支援する全国初の農業応援基金の新設 等

(研究開発)



(実用化)



イオンビーム育種技術と組織培養技術の組み合わせにより、植物工場の生産に適した高生長性野菜の品種開発

○若狭湾エネルギー研究センターの概要

若狭湾エネ研では、2種類の加速器を組み合わせた広範囲のエネルギービームを活用した研究が特徴

がん治療研究や原子炉構造材の損傷評価から品種改良研究による農業利用まで、様々な分野の研究とその実用化に成果



シンクロトン加速器



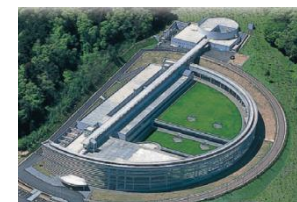
タンデム加速器

移転候補地

若狭湾エネルギー研究センター
(敦賀市)

[関連機関]

- ・福井県立大学生物資源学部
- ・福井県立大学海洋生物資源学部
- ・福井県食品加工研究所 等

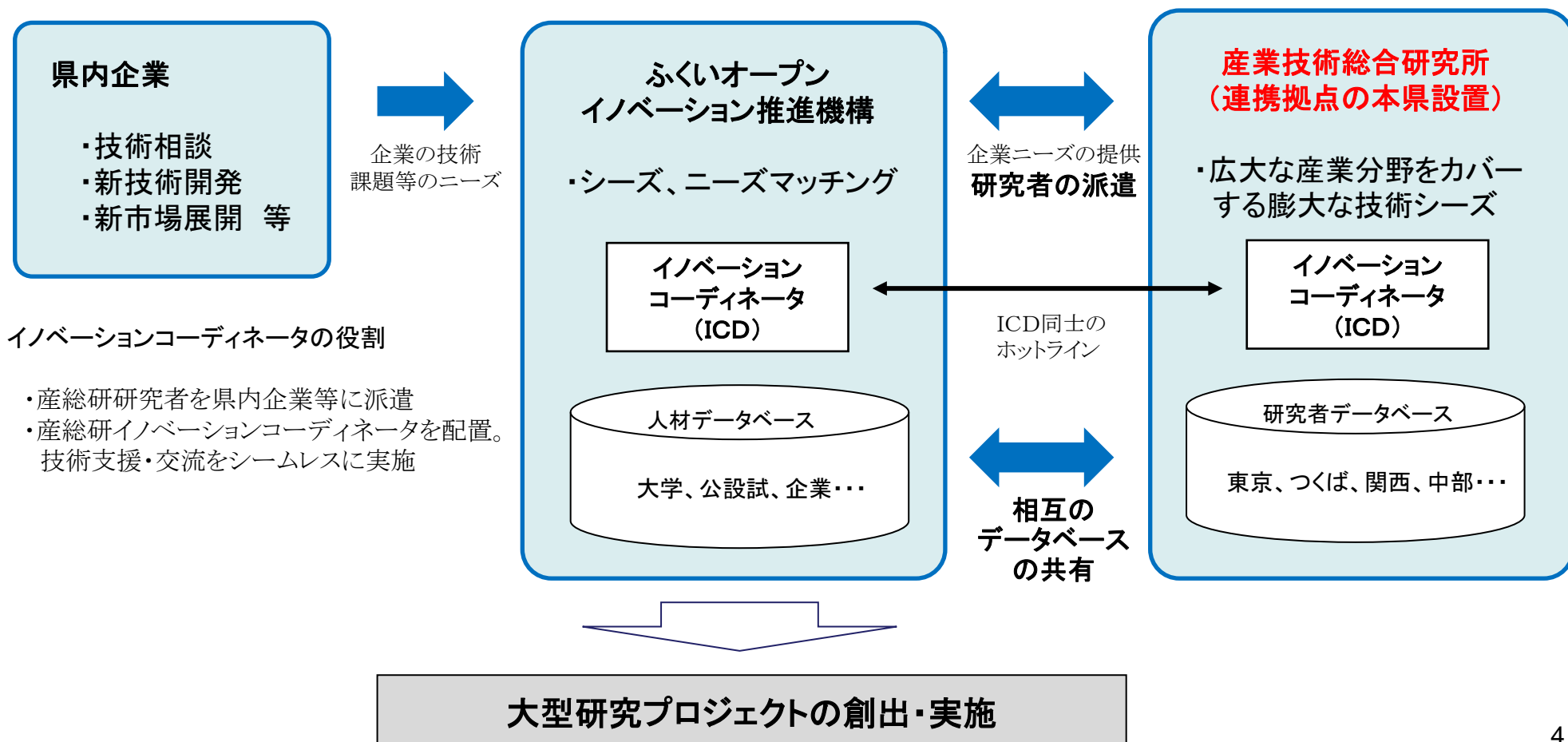


移転提案機関：(独)産業技術総合研究所

(エネルギー・環境、生命工学、情報・人間工学、材料・化学、エレクトロニクス・製造領域)

○本県では、産学官金が連携し、県内中小企業の研究開発から販路開拓まで一貫支援する「ふくいオープンイノベーション推進機構」を設置。今後、県外研究機関との連携協定締結などにより、研究開発の支援体制を強化

○産業技術総合研究所と連携協定を締結し、本県に連携拠点を設置



移転提案機関：国立教育政策研究所、(独)教員研修センター

- 本県と福井大学は、「学校拠点方式」による教員育成で成果をあげている。独自の学力調査等とあわせ、実践の現場において間近に学ぶ環境を整備することにより、我が国の教員力を向上
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター、教員研修センター教育課題研修課を福井県に移転。あわせて、政府において検討中の幼児教育に関する調査研究拠点の本県設置を提案

本県移転のメリット

[研究環境]

- ・大学教員が学校に赴き、学校の課題解決に協働で取り組む「学校拠点方式」による教師教育を実践
- ・福井県独自の「コア・ティーチャー養成事業」や学校拠点方式を活かした校内研修の充実等を実施
- ・0歳から高校卒業までの18年間の校種間連携を強化する福井型18年教育を実践。全国初となる公私校種を超えた幼児教育の指導者養成を実施

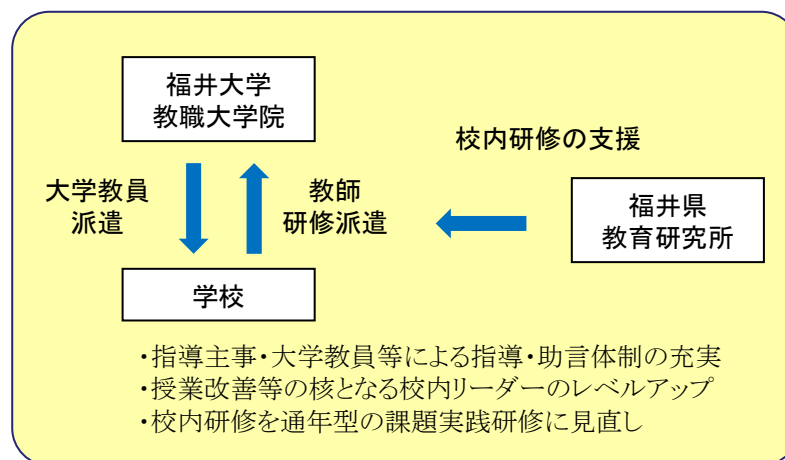
[受入環境]

- ・国内外から年間2千名を超える教育視察受入れ実績あり



教科や校種を越えた授業研究会、院生と教職大学院教員とのカンファレンスの実施

学校拠点方式の概要



優秀な教員が学校教育の現場を離れることなく、さらに専門的・実践的な能力向上が可能

移転候補地

平成28年度以降に予定する福井県教育研究所の移転にあわせて誘致

※幼児教育の調査研究拠点は、福井県幼児教育支援センター(福井市)内に設置

移転提案機関：国立青少年教育振興機構

○本県の多様で豊かな里山里海湖は、質の高い自然教育プログラムの題材として好適。さらに、恐竜学や年縞など、特徴的かつオリジナルな研究の成果活用や研究者の全面的サポートが可能

○国立青少年教育振興機構青少年教育研究センターを本県に移転

本県移転のメリット

[研究環境]

- ・県立恐竜博物館に加え、古生物学や地質学を研究する県立大学恐竜学研究所を設置、アジア恐竜協会を設立
- ・里山保全再生のための研究・教育・実践を行う県立里山里海湖研究所を開設

[研究人材]

- ・中学校の全理科教員を里山里海湖研究所の研究推進員に委嘱

[実証フィールド]

- ・環境学習の場として「福井ふるさと学びの森」を整備

(具体的な活動内容)

子どもによる山遊びや野鳥観察、間伐体験
里山里海湖研究所による里山の生態のモニタリング調査 等

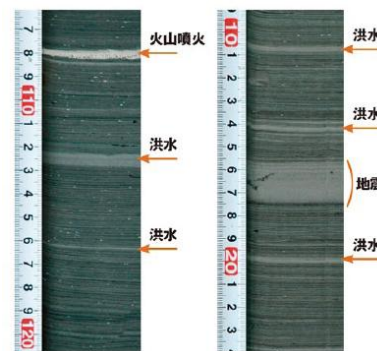


学びの森、屋外恐竜博物館での体験学習

○今後予定する里山里海湖関連事業

7万年分の年代測定の世界標準に認定された「水月湖年縞」の展示施設を整備

中山間地域の保全と農業振興を進めるため、鳥獣害に強い果樹栽培の実証やふるさと徳用林産物の再生等を開始



水月湖の年縞



林業遺産 越前オウレン

移転候補地

平成28年度以降に予定する福井県教育研究所の移転にあわせて誘致

移転提案機関：(独)水産総合研究センター

- 本県では、国内外の研究機関・大学、企業等参画する水産分野の学術産業拠点づくりを構想。国際的連携による広域性回遊魚の資源管理や陸上養殖技術の開発など、新たな日本海漁業の研究を強化
- 学術産業拠点整備にあわせ、水産総合研究センター本部研究推進部および日本海区水産研究所を移転

海洋生物資源国際研究センター(仮称)

- 開設地：小浜市
 - 設置者：福井県
 - 活動内容：
 - 研究、実務研修、学位取得
 - 参画機関：
 - ・政策研究大学院大学
 - ・福井県立大学
 - ・福井県水産試験場 栽培漁業センター
 - ・**水産総合研究センター**
(本部、日本海区水産研究所)
 - ・水産庁
 - ・水産系大学
 - ・水産系企業
 - ・JICAなど国際機関
- ロシア・中国・韓国等からの留学生・研究者も受入れ

機関移転による将来構想

	企画	教育	研究	研修
増養殖	政策大学 福井水試		福井水試	
	県立大学			
	水研C本部 水産庁 国際機関	日水研(資源生産部) 水産系大学 国外研究者	水産系企業 留学生	
	福井水試 政策大学		福井水試	
資源管理	県立大学			
	水研C本部 水産庁 国際機関	日水研(資源管理・環境部) 水産系大学 国外研究者	留学生	
	福井水試 政策大学		福井水試	
	福井水試 政策大学		福井水試	

要望① 提案募集の対象外機関の移転

- 日本を代表する中世遺産である一乗谷朝倉氏遺跡の新たな博物館整備にあわせ、日本中世史に関する研究機関や研究者が参画する研究拠点づくりを構想。中世史研究の高度化を推進
- 新博物館整備にあわせ、国立歴史民俗博物館中世史研究分室の本県設置を要請

機関移転による将来構想

一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)

平成32年度開館予定
(平成27年度:基本計画策定)

- 開設地:福井市
- 設置者:福井県
- 整備内容:
 - ・遺跡観光のゲートウェイとなる展示・ガイダンス
 - ・**日本中世(主に戦国期)史の研究拠点**
 - ・遺物や遺跡の保存
 - ・資料収集、収蔵
 - ・教育普及等



一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)内に
**国立歴史民俗博物館
中世史研究分室を設置**

(参画機関)

福井県

- ・歴史博物館
- ・埋蔵文化財調査センター等

国立歴史民俗博物館

- ・研究者の出向

県内外大学

東京文化財研究所
奈良文化財研究所
国内外の研究者(公募)

(研究テーマ)

中世都市の実像を解明

- ・中世都市の構造を解明
- ・中世のくらしと生業・流通を解明
- ・文化財の公開手法と活用



一乗谷朝倉氏遺跡

全国唯一、中世城下町遺構がそのまま残る大規模遺跡
約170万点の出土品のうち、2343点が重要文化財

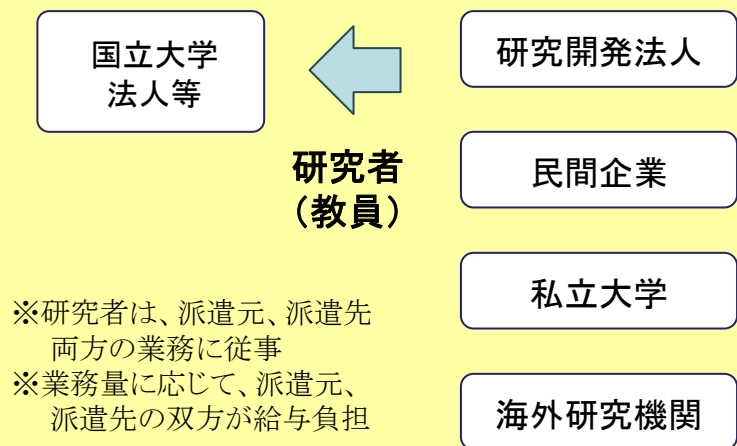
要望② 地方の研究機能強化の仕組みづくり

○地域における産業・科学技術分野の研究開発や学術研究については、専門的人材が不足。
研究目的や内容に応じて、都市圏の研究機関や大学等の研究者が参画する仕組みが必要

○政府関係機関の移転に加え、地方の公的研究機関等を強化する人事交流制度を提案

従来のクロスアポイントメント制度

国立大学の機能強化が目的



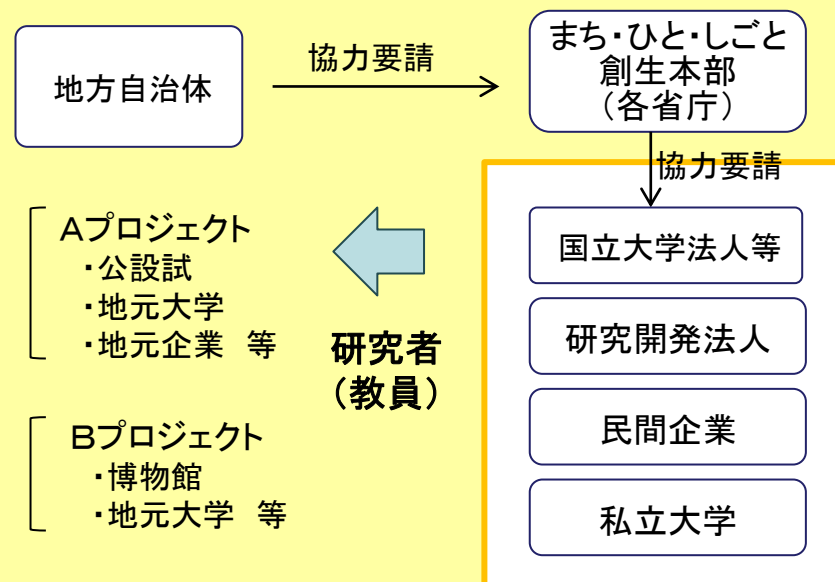
※研究者は、派遣元、派遣先
両方の業務に従事
※業務量に応じて、派遣元、
派遣先の双方が給与負担

(問題点)

- ・公務員型の研究機関は対象外
- ・研究者のマッチングを支援する機能はなし

本県が求める人事交流制度(案)

地方の公的研究機関等の機能強化が目的



- ・地方のプロジェクトに必要な人材を国がマッチング
- ・給与負担や雇用形態、期間等は派遣元と自治体が協議